



まちのできごと・マンスリーでお知らせします。

3/26 千歳リトルシニア球団が市長表敬
全国大会へ意気込み



少年野球チーム《千歳リトルシニア球団》が、第10回記念宮日旗中学硬式野球全国特別大会への出場を報告するため、市役所を訪れました。市内と安平町、厚真町の中学生で構成される千歳リトルシニアは、打撃と走塁が強みのチーム。リトルシニア北海道連盟からの推薦を受け、全国行きが決定しました。冬季は恵庭市にある室内練習場で練習を重ねており、大会には中学2、3年生の25選手が出場予定です。キャプテンの井上碧人さん(勇舞中3年)は、横田市長から意気込みを聞かれ、「多くの人の期待を背負って出場する大会。自分たちの力を信じて臨みたい」と力強く話しました。

4-1 現在の人口

《総人口》
97,173人 (-611)
男性 49,271人 (-398)
女性 47,902人 (-213)
《世帯》51,955世帯 (-152)

()内は、前月との比較です。

広報ちとせからのお知らせ

広報ちとせの発行日は毎月10日です。この日までに届かないときは、次の番号にご連絡ください。なお、町内会に加入しているしていないを問いません。

広報広聴課 広報係
☎(24)0104 FAX(22)8851

3/25 病院研修を通じ隊員の技能向上を図る
第7師団と市民病院が協定締結



陸上自衛隊第7師団と市民病院が、陸上自衛隊員の病院研修に関する協定を締結しました。協定の内容は、第7師団所属の准看護師資格を持つ隊員を市民病院に派遣し、手術室または救急外来での看護業務を研修させるもので、さまざまな症例が集まる市民病院での業務を通じ、隊員の技能向上を図ることを狙いとしています。研修者の人数は、年間6人程度を見込んでいます。協定の調印式には、第7師団の橋本 賦 副師団長と市民病院の伊藤 昭英 院長が出席。橋本副師団長は、「市民病院との連携を強化し、災害対応にも万全の体制を整える。地域の人々の安全・安心に貢献できると考えている」と話しました。

3/2 市民憲章普及作文コンクール
中学生が市民憲章への思い語る



千歳市民憲章推進協議会が、市内の中学生を対象に市民憲章普及作文コンクールを行いました。応募作品は総数775点にも及び、選考委員会での協議などを経て優秀作品22点を決定。3月2日には表彰式を開催しました。約2年前に東京から市内に引っ越してきた千歳中2年(受賞時は1年)の平間 安兒さんは、「誇れる千歳の未来のために」と題する作品で教育長賞を受賞。受賞後のインタビューにて、「東京に比べて空が広がったと感じた」と千歳の第一印象を話し、支笏湖の透明度の高さや動物の多さといった作品内の記述に触れ、「市外の人も含め、多くの人に千歳の自然の豊かさが伝わってほしい」と、作品に込めた思いを語りました。

3/23 まちの中心部を舞台にしたビジネスプランが集結
ちとせまちなかビジネスコンテスト



ちとせ未来ビジョンで掲げる《まちの顔エリア》を対象とした新たなビジネスを提案する《ちとせまちなかビジネスコンテスト》の最終審査会を開催しました。当日は、20件の応募の中から審査を通過した4人の発表が行われ、《オリジナル薫製調味料を活用した地域のつながりづくり》のプランを提案した市内在住の巳扇 隆人さんがグランプリを受賞。表彰式では「初年度の受賞者として、来年度の応募者からも事業の成功を期待される、責任あるグランプリだと感じています。その期待にお応えできるよう頑張ります」と意気込みを語ってくれました。

3/16 千歳リハ大で健康増進教室を開催
歩行速度の維持・向上で健康を維持



地域の方からの声で開催が実現した《歩行速度維持・改善教室》。当日は、市内各地から19人が参加し、歩行速度の維持・向上の重要性を学んだ後、10mの歩行速度を測定しました。測定前は緊張していた様子でしたが、平均値よりも早く歩けることが確認できると参加者から笑みがこぼれました。測定後は歩行速度の維持・向上のための《インターバル歩行(「ゆっくり」と「速く」を繰り返す足踏み)》を体験しました。最近、歩行速度が遅くなったという参加者の木暮 恒男さんは「早く歩く方法を知りたかった。さっそく今日からインターバル歩行を始めます」と意気込みを語ってくれました。

Vol.12 人物伝 酒井憲次郎③ Chitose Airport 100th anniversary

▶ 帰らなかった男
昭和7年9月15日、新千歳から日本本土への横断飛行を敢行し、消息を絶った酒井憲次郎と片桐庄平。

▶ 100年後の未来でも
「北海」第1号とともに千歳に飛来し、着陸場1番機のパイロットとなった酒井憲次郎。彼は空を飛ぶことに命を懸け、どんな困難にも敢然と立ち向かい、どんなときも絶対に諦めませんでした。千歳村民の願いに応え、夢を叶えてくれた功績は、100年後の未来においても確かな足跡として千歳史、航空史に刻まれています。

海中に墜落し、遭難死亡したものと認めました。このとき酒井は29歳でした。

その早すぎる死から70年後の平成14年には、市内の有志らが酒井の功績をたたえ、ブロンズ像を新千歳空港内に建立しました。ブロンズ像は現在、柏台南の空港公園に移設され、酒井が千歳着陸場に降り立ったその時を現代に伝えています。

空港のはじまり編 おわり

手づくりの着陸場から新千歳空港へ
開港100年の歴史を振り返る

ちとせ空港 百年物語